

ゼンロック

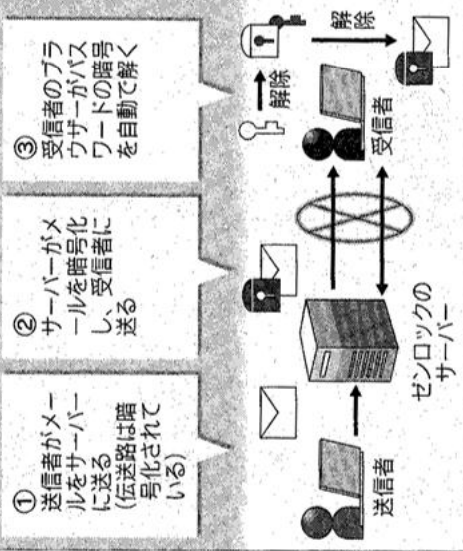
メール暗号化サービス型で

社内サーバー構築不要

システム関連会社のゼンロック(東京・中央アミール・アヤロン社長)は電子メールを暗号化して送信できるサービス始める。顧客企業が社内に専用サーバーを構築したり、専用ソフトウェアを導入したりする手間を省けるのが特徴。社内情報などの漏洩(ろうえい)が相次ぐなか、メール暗号化の需要は伸びると判断した。

用サーバーに指定。ゼンロックのサーバーに送られた送信メールを自動的に暗号化して相手に送信する仕組み。導入が容易

ゼンロックのメール暗号化サービスの仕組み



電子メールの暗号化はメール本文や添付ファイルを暗号化することで伝送途中で内容を盗み見られるリスクを少なくする。システムを構築する際には送信側の企業に専用サーバーを置くケースが多い。新サービスは「ゼンロックコンプライアンスプラス」。メールの送付側がパソコンのメールソフトの送信サーバーをゼンロックが保有する専

なインターネット経由の「SaaS(サーズ)」型で提供し、顧客のすそ野を広げる。

メール暗号化の方式にはウィンドウズOS(基本ソフト)などを搭載するASP方式を採用。受信側は専用ソフトを導入しなくても、パスワードがあれば暗号を解読できるようにした。

暗号を解くキーワード

は暗号化したうえで、ゼンロックのウェブサイトにメールアドレスを登録し、ブラウザ(閲覧ソフト)経由でサイトを通じて入手する。メールや電話による伝言方法と異なり、キーワードが盗まれる危険性を減らせるという。

送信のあと先を誤ることなどで機密情報を流出させた場合には、解読用

のキーワードの配布を止めることで、情報流出を少なくする。

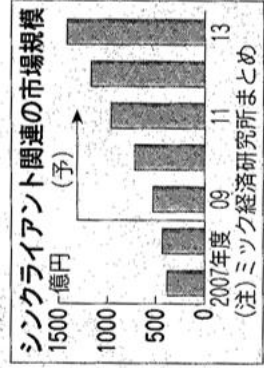
ライセンス価格は送信アカウントが101以上で、1アカウント年間9000円(税抜き)。メールサーバー販売を手がけるクラウドシブテクノロジーズ(東京・豊島)が主に販売を担当。今後1年間で3万アカウントの獲得を目指す。

オンメモリー型DB製品投入 日本オラクル

日本オラクルはデータを高速処理できるオンメモリー型データベース(DB)システム製品を発売した。機能を停止させずにシステムを拡張できるなど、使い勝手を高めた。証券取引システムなど高速処理が求められる分野向けに売り込む。

単体でDBシステムとして動作する「オラクルタイムスリー インメモリー データベース 11g」と、同社のDBソフトウェアと組み合わせ、使った「オラクル インメモリー データベース キャッシュ 11g」の2製品を用意した。データの書き換えといった処理を高速な半導体メモリーで実行するため、ハードディスク駆動装置(HDD)で実行する場合と比べ処理速度を

ミック経済研究所(東京・港)はサーバー側で集中して情報処理を受け持ち、ユーザーは記憶装置を持たないパソコンを



シンクライアント関連市場

13年度に1417億円

使う「シンクライアントシステム」関連市場に関する調査をまとめた。情報漏洩(ろうえい)の防止やコスト削減を目的に、利用企業は拡大すると判断。2013年度には市場規模が08年度比3.3倍の1417億円に拡大すると予測している。

IT(情報技術)企業48社に対する面接と、ユーザー企業101社へのアンケート結果をもとに

民間予測、08年度比3.3倍

まとめた。09年度は新型インフルエンザ対策としてシンクライアントシステムを利用するケースもあり、市場規模は08年度比22%増の527億円を見込んでいる。

ユーザーがパソコンを紛失しても情報漏洩(ろうえい)が起きにくい安全性に加え、管理費用の削減にもつながることから、10年度以降も利用企業数は増え続けるとみている。